

はじめに

阿部治 立教大学 ESD 研究センター代表

立教大学 ESD 研究センターでは、アジア・太平洋地域における ESD（持続可能な開発のための教育）の推進をめざして 2007 年度より 5 か年にわたり活動を続けてまいりました。ESD センターにはアジア、太平洋、CSR、統括の 4 つのチームがありますが、この内アジアチームではタイの NGO スタッフと農村指導者の養成に関するアクション・リサーチを行ってきました。その中でタイの先住民族が抱えている人権や環境に関する厳しい問題状況を改めて認識することになりました。

タイだけではなく、日本のアイヌや世界の先住民族は、近代化の過程で従来もっていた土地やさまざまな権利を奪われ、民族的な差別を受け、固有の文化を失いつつあります。もともと先住民族は、自然と共生し、環境に負荷をかけないつつましい生活をしていて、環境保全の立場からもその価値観やライフスタイルが注目されています。

2007 年に「先住民族の権利に関する国連宣言」が採択されてからは、ようやく日本でも先住民族が抱える課題が認識されるようになりました。2008 年に行われた洞爺湖サミットの直前には、衆参両院において「アイヌ民族を先住民族とすることを求める決議」がなされ、日本政府もようやくアイヌ民族が抱える課題について取り組みを始めたところです。

こうした状況を受けて、当センターでは昨年度、ESD コーディネーターのための指導書として『先住民族と ESD』を刊行しました。開発教育のワークショップの手法を用いたこの教材は、おかげさまで各方面で利用され好評を得ています。本書は、その続編であり、新たに小学生から高校生レベルで使用できる教材を収録しています。

先住民族であるアイヌをめぐる問題の解決には、北海道という一地域ではなく日本全体での取り組みが必要です。前書同様、本教材が広く活用されて、問題の解決に向けて少しでも前進することを願っております。

もくじ

はじめに 阿部治……………1

解説

先住民族をめぐる課題と ESD 教材 田中治彦……………3

教材

1 あんな服こんな服……………8

国カード……………9

地図……………10

教材「あんな服こんな服」解説 樋口歩……………11

2 ショツの 500 年

A 地名当てゲーム……………13

地名当てゲームに使うアイヌ語一覧表……………14

地名カード……………15

B 動物と狩猟用具……………19

C ショツの 500 年……………20

役割カード……………22

ショツの 500 年・カード解説……………27

解説 ショツの 500 年 渡邊圭……………33

教材へのコメント みんなが描く未来 砂澤嘉代……………34

付録

あんな服こんな服……………38

ショツの 500 年……………41

本書は 2010 年度に立教大学 ESD 研究センターより発行された『先住民族と ESD』の続編である。¹⁾ その本文において「先住民族をめぐる課題と教材開発」を小泉雅弘(さっぽろ自由学校「遊」)、「先住民族に関する国際的動向」を上村英明(恵泉女学園大学)が解説している。本書ではじめてこれらの問題に触れる方々のために、これらの課題について本書でも解説しておきたい。その上で、先住民族とアイヌについて学ぶことの意義、そして収録されている教材の目的と内容について述べておこう。

1. 先住民族とアイヌをめぐる問題状況

2011 年 10 月末に世界の人口は 70 億人に達したが、この内 4 億人弱が先住民族であると言われている。2007 年に国連で採択された「先住民族の権利に関する国際連合宣言」では、先住民族について、「植民地化とその土地、領域および資源の奪取の結果、歴史的な不正義に苦しんできた」と説明されている。²⁾ すなわち先住民族とは、近代以降の植民地政策や同化政策によって、自らの社会や土地、固有の言葉や文化などを否定され、奪われてきた人びとである。

日本においては北海道を中心におよそ 3 万人のアイヌの人びとが暮らしていると推定されている。アイヌに関しては 1899 (明治 32) 年に「北海道旧土人保護法」が制定されていたが、その名称からもわかるようにきわめて差別的な法律であった。³⁾ アイヌ民族は 1984 年に「アイヌ民族に関する法律 (案)」を北海道ウタリ協会 (現、北海道アイヌ協会) の総会で採択した。その法律案では、アイヌ民族側から「アイヌ新法」の内容として次の 6 つの条項が求められている。① 基本的人権の確立 (アイヌ民族に対する個人的・集团的差別の撤廃)、② 参政権 (国会での民族代表の議席)、③ 教育・文化の振興、④ 農業漁業林業商工業等の振興

(総合的な産業振興と経済政策)、⑤ 民族自立化基金の設置 (独自の財源の確保)、⑥ アイヌに関する審議機関の設置、である。⁴⁾

その後、1997 年には「旧土人保護法」が一世紀ぶりに廃止されて、「アイヌ文化振興法」が制定された。⁵⁾ 政府が一応取り組む姿勢を見せたものは、アイヌ語を含むアイヌ文化の振興だけであった。先住民族としてアイヌ民族に回復されねばならない権利は総合的なものであるにもかかわらず、「アイヌ文化振興法」においてはアイヌ民族が要求していた 6 項目の内、「③ 教育文化の振興」を除く 5 項目についてはほとんど顧みられなかった。

こうした状況が大きく変化したのは、2007 年に「先住民族の権利に関する国際連合宣言」が採択されてからである。この宣言は、アイヌ民族を含む世界中の先住民族の働きかけと、四半世紀に及ぶ議論の成果であり、先住民族の権利に関する国際的な最低限の基準を示したものである。国家によって権利を侵害されてきた先住民族に対し、「民族の自己決定権」を基盤にすえた諸権利を保障するとともに、国家にその権利回復の責任を求めるこの宣言が国連の場で採択されたことは、画期的なことであった。

この宣言の採択を背景に、それまで頑なにアイヌ民族を先住民族として認めることを拒んできた日本政府の姿勢にも変化がみられるようになる。北海道洞爺湖 G8 サミットの開催を直前に控えた 2008 年 6 月、衆参両院で「アイヌ民族を先住民族とすることを求める」決議が採択された。それを受けて、日本政府は「アイヌの人々が日本列島北部周辺、とりわけ北海道に先住し、独自の言語、宗教や文化の独自性を有する先住民族である」との認識の下に、「先住民族の権利に関する国際連合宣言における関連条項を参照しつつ、これまでのアイヌ政策をさらに推進し、総合的な施策の確立に取り組む」ことを表明した。そして、その政策のあり方を政府に提言する「アイヌ政策のあり方に関する有識者懇談会」が設けられた。

1) 『先住民族と ESD』立教大学 ESD 研究センター、2011 年

2) 「先住民族の権利に関する国際連合宣言」前文第 6 段落、国連総会第 61 会期、2007 年 9 月 13 日採択

3) 「北海道旧土人保護法」明治 32 年 3 月 1 日、法律第 27 号

4) 「アイヌ民族に関する法律 (案)」社団法人北海道ウタリ協会、1984 年 5 月 27 日

5) 「アイヌ文化の振興並びにアイヌの伝統等に関する知識の普及および啓発に関する法律」平成 9 年 5 月 14 日、法律第 52 号

有識者懇談会は、一年間の審議を経て、2009年7月に最終報告書を政府に提出する。⁶⁾ この報告書を踏まえ、政府は2009年8月にアイヌ政策の総合的な窓口としてアイヌ総合政策室を内閣官房に設置し、14人（うち5人がアイヌ民族）からなる「アイヌ政策推進会議」を設けて、具体的な政策についての議論をはじめた。ただし、この報告書はアイヌ民族が先住民族であるということを確認しながらも、具体的政策としては、「国民の理解の推進」、「広義の文化に関わる政策」、「推進体制等の整備」をあげるにとどまっており、現在議論されている政策もこれまでの文化振興政策の延長線上の施策にとどまっている。

こうした政府の対応の変化の一方で、アイヌ民族自身の間でも、新たな動きが様々な形で生じてくる。有識者懇談会にはアイヌ民族のメンバーは一人しか含まれていなかったが、この有識者懇談会に対して複数のグループから提言や要望が提出された。これらの提言に共通しているのは、国連の権利宣言に基づき、政府がアイヌ民族の包括的な権利の回復に責任を持つことを求めていることである。1997年制定の「アイヌ文化振興法」は、アイヌ民族に先住民族としての権利を認めたものではなく、あくまでもアイヌ文化の振興と知識の普及・啓発のみを目的とした法律であった。国連宣言の採択は、アイヌ民族に自分たちが本来求めてきたものが何であったのかを再確認させる機会となった。そうした中、各地域のアイヌ民族が、その地域の状況に即した権利要求をしはじめていることも、最近の特徴といえる。

また、洞爺湖 G8 サミットや 2010 年に名古屋で開催された生物多様性条約 COP10 などにあわせて「先住民族サミット」が開催されるなど、世界の先住民族とつながるとともに、アイヌ民族の存在や主張を広く市民にアピールしていく動きも広がっている。一方、若い世代の間では、アイヌの伝統文化を現代アートと融合させる試みや、これまで伝承されてこなかった埋もれた伝統舞踊などを新たに発掘し、再生させていく

試みなども行われるようになってきている。

2. 先住民族と ESD

ESD（持続可能な開発のための教育）の一環として先住民族やアイヌの問題に取り組んできたのが、北海道の NPO である「さっぽろ自由学校「遊」」である。「遊」では ESD の特徴である「参加・体験型の学び」や「地域へのアプローチ」に注目して、2003 年度から 9 年にわたって地元の NPO や個人と協力して道内各地で ESD ワークショップを開催してきた。初期のワークショップは、開発・環境問題への気づきを目的としたものであったが、次第に「地域づくり」に焦点を当てたものになり、現在は、地域の課題を出し合いながら地域づくりの目標や取り組みを考えるワークショップと市民調査を組み合わせた実践を行っている。

こうした実践のなかで、地域の課題として本来存在するはずのアイヌの課題が隠されていたり、あるいはアイヌとその他の日本人との間で断絶した歴史観をもっている、などの問題に直面する。そこで、「遊」では北海道という地域において欠かすことのできない「アイヌ民族との共生」のための学びを意識的に進めている。これまでに、⁶⁾ 二風谷や登別、静内・浦河、知床などを訪れる体験ツアーを行ったり、「共生への学びをつくりだす」というテーマで 2 日間の合宿セミナーを行った。

これらの過程で、北海道における ESD の情報発信や教材化を行ってきた。この間「遊」では『DVD 教材：もうひとつのツーリズム—先住民族エコツアーの始動』（2007 年）、『アイヌ民族、半生を語る—貧困と不平等の解決を願って』（2009 年）を発刊している。⁷⁾ そして、2007 年には北海道開発教育ネットワークや開発教育協会のメンバーと協力して『ティフ星人は、パセリを食べる—抑圧する者とされる者の関係を考えるワークショップ』を CD 版で発行する。昨年に当セ

6) 「アイヌ政策のあり方に関する有識者懇談会報告書」平成 21 年 7 月

7) 中村康利『アイヌ民族、半生を語る—貧困と不平等の解決を願って』さっぽろ自由学校「遊」、2009 年

ンターから発行された『先住民族とESD』はこのワークショップに必要な改訂と解説を加えて教材化したものである。

さっぽろ自由学校「遊」や当センターが、先住民族とアイヌに関する教材を発刊する背景には、この問題に対して日本人の大多数の理解が薄いという現実があるからである。北海道では小中学校においてアイヌ理解のための副教材が各公立学校に配布されているものの、一部を除いてはそれらが有効に活用されているとは言い難い状況がある。⁸⁾ ましてや、道外の日本の他の地域の学校においては、アイヌについてのまとまった学習は行われておらず、従って多くの日本人がもっている知識はきわめて断片的なものにとどまっている。一方、先に述べたように先住民族の権利に関する国連宣言以降、日本政府にもアイヌ民族自身にもさまざまな動きが出ている。⁹⁾ アイヌをめぐる課題は、北海道という一地域にとどまっている限りは解決への展望を開くことはできず、日本全体の課題としてとらえることが必要な段階に来ている。こうした状況認識のもと、当センターでもESDの一環として先住民族に関する教材を発行し、ワークショップを行うことになったのである。

3. 先住民族について学ぶ —教材の意義

先住民族そしてアイヌについて学ぶということとはどのようなことであろうか。単にアイヌや先住民族についての知識量を増やすということのみでないことは明らかである。先の有識者懇談会の報告書では、先住民族を以下のように定義している。「先住民族とは、一地域に、歴史的に国家の統治が及ぶ前から、国家を構成する多数民族と異なる文化とアイデンティティを持つ民族として居住し、その後、その意に関わらずこの多数民族の支配を受けながらも、なお独自の文化とアイ

デンティティを喪失することなく同地域に居住している民族である。」

この定義にもみられるように、先住民族と呼ばれるにはおおよそ以下の3つの要件が必要だと考えられる。ひとつは「先住性」である。文字通り、もともとその土地に集団として住んでいたということである。「先住」ということは、後から来た民族（国家を構成する多数民族）がいるということを前提としている。第2は「被支配性」である。自分たちの意志によらずに、その後からやってきた国家を構成する多数民族に支配されたということを意味する。3つめは「文化とアイデンティティの保持」である。支配されたにも関わらず、独自の文化とアイデンティティを失わずに保持しているということである。

ここから分かることは、先住民族とは、その民族集団がもつ本質的な性格によって規定される概念ではなく、国家を構成する多数民族との関係性によって規定される概念であるということである。つまり、アイヌ民族について学ぶということは、同時に、日本という国やそのマジョリティとしての大和民族（和人）がアイヌ民族に対して行ってきた、そしていまお行っている植民地主義的なあり方や意識と向き合い、どのようにそこから脱していくのかという脱・植民地化の課題について学んでいくことに他ならない。

『先住民族とESD』に収録された教材「ティフ星人はパセリを食べる」は、もともとカナダで発行された教材「500年前—植民地主義の再発見」を下敷きとして、それを日本の先住民族の課題にひきつけてアレンジした教材である。¹⁰⁾ そのメインのアクティビティである「宇宙人がやってきた」では、地球人と宇宙人との遭遇の場面から植民地化のプロセスを疑似体験するものであり、植民地化された側の感情を共感的に理解することがねらいであった。その後、「史実カード」により、疑似体験した植民地化のプロセスを、実際の植民地化の歴史と重ねあわせて理解していく。ここでは「アイヌ民族」と「サラワク先住民族」のカードが

8) 『アイヌ民族：歴史と現在—未来を共に生きるために—（小学生版・中学生版）』財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構、2008年

9) 2012年1月にアイヌ民族の権利回復と多文化共生社会の実現をめざして「アイヌ民族党」が結党される。

10) 500 YEARS AGO - Re-discovering the colonialism, Victoria International Development Education Association, 1994

用意されている。最後に「私の願い」というアクティビティで振り返りを行う。

この教材は北海道のみならず開発教育のネットワークを通じて全国的に利用された。著者も2008～9年に立教大学の国際教育論の授業と、上智大学の生涯教育演習で使用させてもらった。もしこの教材に出会わなかったら、専門家ではない者がアイヌについて授業することは難しかったであろう。この教材については実践した方々からさまざまな意見が寄せられた。「宇宙人を演ずるのがシャイな人には難しい」「史実カードが客観的すぎて実感がもてない」「史実カードが難しすぎる」「小学生向けの教材がほしい」等々。そこで北海道開発教育ネットワークのメンバーが話し合いアイデアを出して作成したのが、本書に収められている2教材である。

「あんな服こんな服」は写真を使った絵合わせであり、主に小学生を対象に開発された。それぞれの国の主要民族と少数民族の晴れ着と普段着の姿を組み合わせることで、それらの国々が複数の民族からなる国家であることを知る。日本にもアイヌ民族が暮らしていることを改めて認識する。また、晴れ着には各民族の特徴が色濃く残っているが、普段着となるとほとんど区別がつかないくらい均一化していることにも気づくであろう。

「シコツの500年」は、千歳地域におけるアイヌと和人の交渉史を物語にしたものである。この教材の優れているところは、わずか20分余りの語りの中に、アイヌが交換を通じて土地や文化を奪われていくプロセスが凝縮されていることである。しかも、それぞれの取引き自体はさほど問題ないように思われても、500年の歴史の中でアイヌは多くのものを失い、和人は結果的に近代化した都市を得ることになる。千歳には空港もあり、北海道の玄関口であるので、北海道以外の人々もこのワークを通じて感ずるところがいろいろあるであろう。著者は過去30年間、さまざまな開発教育の教材を見つけてきたが、この教材はそ

も5本の指に入ると言ってもよい。

先に述べたように、先住民族であるアイヌをめぐる状況は、北海道という一地域の問題としてとらえたのでは解決への展望が開けないところに来ている。ぜひ、道外の多くの人々にこれらの教材を活用していただき、先住民族とアイヌをめぐる課題について理解を深めてもらいたいと切に願うものである。

教材

あんな服こんな服 シヨツの500年

1

あんな服こんな服

概要

アジアの国々の伝統的な衣装と、現在の普段着の写真の両方を見て、気が付いたことを話し合う。一つの国に一つの民族だけが暮らしているわけではないことに気づかせる。

ねらい

- ・一つの国に一つの衣装が当てはまるとは限らないことから、日本も含め一つの国に一つの民族だけがいるわけではないことに気付く。
- ・異なる民族であっても現在はほとんど同じような生活を送っていて、特別な場所にだけ生活していたり、今でも伝統的衣装だけ着たりしているわけではないことに気付く。

所要時間

15～25分

準備

3～6人のグループになって座る。
グループ数分の、地図・国カード・衣装カードを用意する。

進め方

1. グループで、一枚の地図を広げて見る（付録の地図）。

「どこがなんという国か、わかりますか。」

2. 地図上に国カードを置く。

国カードを各グループに配る。

「国カードが8枚あります。どこがなんという国か考えて、当てはまるところに国カードを置いてください。」

3. 地図上に衣装カードを置く。

衣装カードを各グループに配る。（裏はまだ見ない）

「衣装カードが8枚あります。この衣装カードは、今みなさんが国カードを置いた国のどこかに当てはまります。どの国のものか話し合っ、地図の上に置いてください。」

4. カードを一枚ずつ裏返す。

「置き終わったようなので、答え合わせをします。」

カードを一枚ずつ裏返し、グループで読みあう。

5. カードを見て、気が付いたことや感想を話し合う。

「カードを置いてみて、気が付いたことはありますか。」

「裏返したカードを見比べてみて、気が付いたことはありますか。」

「同じ国なのに、二枚のカードが当てはまる場所がありました。同じ国の中のカードを見比べてみて、気が付いたことはありますか。」

国カード (次ページ)

コピー後、切り離してお使いください。



※このカードで難しい場合、地図の該当する国を切り取って国カードを作り、パズルのようにあてはめられるようにしてもよい。



に ほん
日本

バングラデシュ

インドのおとなり。北海道2個分

タイ

みなみ ほそなが
南のほうは細長〜く…

ちゅう ごく
中国

に ほん こ ぶん ひろ
日本25個分よりも広い!

インドネシア

たくさんのしまからできているよ

インド

さんかくけい に
三角形に似ているよ

ベトナム

みぎ うみ ひだり りく ほそなが くに
右は海、左は陸の細長い国

かん ごく
韓国

に ほん
日本のすぐおとなり

地图



本教材は、北海道開発教育ネットワーク (D-net) の合宿セミナーでアイヌ民族の方々のお話を聞いたことをきっかけとしてできたものである。アイヌ民族である彼が小学校で講演をすると、子どもたちに色々なことを質問されるそうだ。

「今でもシカやクマを獲って生活しているのですか」

「いつ、日本語を覚えたのですか」

「家は笹でできていますか」

また、別のアイヌ民族の方は、アイヌの民芸品売り場で働いているときにお客さんからこう聞かれるという。

「どこにいったらアイヌに会えるのですか」

(彼女はもうこの質問をされることに慣れ、「向こうの山奥にいるのよ」と冗談でうそを言うと笑って話していた)

北海道にいながらなんと認識が低いのだろうか。しかし、私自身のことを振り返ってみると、学校で学んだアイヌのことといえば、伝統的な家や暮らしぶり、衣装などのことが主で、なにかぴんとこなかった記憶がある。もちろん伝統を守るためにそういったことを学ぶことは大事なことだが、それよりも前に現在のアイヌについて正しく認識をさせておく必要があるのではないだろうか。そのような思いのもと、“共に生き

るアイヌ”をテーマに教材作成に取り組んだ。それも、アイヌを学ぶ際の導入として使えるもの、そして小学校でも使えるようなものがある。

この教材では、8つの国々の名前と8枚の写真カードを提示し、それらに対応させるようになっている。単純に考えれば国名と写真が一枚ずつ対になるところだが、実はそうではなく一つの国名に複数の写真が該当する所もあるという仕組みである。「国と衣装を結び付けてください」ではなく、「衣装のカードを国のどこかに当てはめてください」と指示することがポイントである。

このワークの意図は次の二つ。まず「一つの国に単一の民族が暮らしているわけではない」ということ、そして「現在は異なる民族でも特別な暮らしをしているわけではなく、共に暮らしている」ということに気付くことである。だから、衣装のカードを当てはめるという作業の中では大いに迷っていただきたいし、グループで話し合っていたいただきたい。この教材から、アイヌ民族に対する様々な誤解を払拭し、日本に共に生きる民族という気づきを促すことができればと思う。そして、ここからアイヌ民族の歴史や文化といった学びに広げていってほしい。



2

シコツの500年

A 地名当てゲーム

概要	グループで、アイヌ語の地名に使われる単語表を見ながら、絵地図に書かれた地名の意味を1つでも多く当てるゲーム。
時間	10分～15分
ねらい	アイヌ語地名が、現地に行かなくてもどのような場所かわかるような工夫がされた地名であったことを学ぶ。
準備	<ul style="list-style-type: none">・ 4人一組になる・ 教材の絵地図・ アイヌ語地名表・ マジックなどの筆記用具1～2本と白い紙7枚・ ホワイトボードか黒板
進め方	<p>1. 地図とゲームの説明（2分）</p> <p>北海道の玄関口である千歳空港のある千歳市周辺の昔の様子であること。カタカナの地名は全てアイヌ語であることを説明する。</p> <p>全ての地名には意味があり、単語の組み合わせで地名ができています。</p> <p>地名の意味を読み解くゲームである。</p> <p>2. ゲーム（5～8分）</p> <p>参加者は、相談しながら、単語表を見て、地図上に書かれた地名とその意味を1つの地名につき1枚紙に書いていく。</p> <p>3. 結果発表とふりかえり（3～5分）</p> <p>グループごとにホワイトボードに紙をはり、多く出せたグループが勝ち。</p> <p>地名の意味がわからないときと、わかった後では、どんなふうに見方がかわるかなどを交流する。</p>
留意点	<ul style="list-style-type: none">・ 地名の語源には諸説があり、はっきりと何を意味するかわからないものもある。・ アイヌ語地名は地名から現地を思い浮かべることができるので、<small>べんかいたこじろう</small>辨開胤次郎という道南のアイヌは青森県八甲田山遭難事件の捜索に参加し、地元の猟師から地名を聞いただけで、遭難場所をあてることができた。青森、東北にもアイヌ語地名が多いことを紹介する。

地名当てゲームに使うアイヌ語一覧表

名詞	意味
ランコ	桂（カツラ）
ネシコ	クルミ
ユク	鹿
カム	肉
プ	倉庫
サク	柵
トイ	土
パイ	イラクサ
イチャン	サケの産卵床
ルイカ	橋

場所名詞	意味
ウシ	たくさんある所
ペツ	川
トゥ	沼
オ	川尻
ナイ	沢
パンケ	下流の
ペンケ	上流の
ソウ	滝
コツ	くぼ地
ル	道

形容詞・動詞	意味
ポン	小さい
ウェン	悪い
モ	小さい
シュクブ	成長した
シ	本当に・すごく
サツ	乾いた
イカ	渡る
サン	下る

地名カード

コピー後、折り線で折ってお使いください。

<p>アイヌ語地名</p> <p>ユク・カム・プ・ウシ</p>	<p>地名の意味</p> <p>鹿・肉・倉庫の多い所</p>
<p>アイヌ語地名</p> <p>ネシコ・ウシ</p>	<p>地名の意味</p> <p>クルミの多い所</p>

折り線

切りはなす

地名の意味

上流の・川

アイヌ語地名

パンケ・ナイ

地名の意味

鹿・肉・倉庫の多い所

地名の意味

クールの多い所

アイヌ語地名

エク・カム・プ・ウシ

アイヌ語地名

ネシロ・ウシ

地名の意味

川尻の・乾く所

地名の意味

小さい・川

オ・サツ

モ・ペツ

アイヌ語地名

アイヌ語地名

地名の意味

成長した・イラクサ

地名の意味

桂の・たくさんある所

シエクプ・パイ

ランコ・ウシ

アイヌ語地名

アイヌ語地名

B 動物と狩猟用具

概要	北海道に住む動物がアイヌ語では何と呼ばれるかを知り、アイヌと動物たちがどのような関係であったかを学ぶ。
ねらい	<ul style="list-style-type: none">・ オオカミなど今は絶滅してしまった動物もいたことを知る。・ 語尾に「カムイ」(神)とつく動物が多く、アイヌが動物に敬意をはらっていたことを知る。・ 様々な工夫をして、それらの動物を利用していたことを知る。
準備	<ul style="list-style-type: none">・ 教材の絵地図 (あらかじめ動物をはっておく)・ 狩猟用具のセット
時間	5分～10分
進め方	<p>1. 動物あてゲーム・動物の名前</p> <p>進行役は、地図に貼ってある動物の日本語名 (ツル・ハクチョウ・ワシ・オオカミ・クマ・シカ・テン・サケ) を言い、参加者はその動物を絵地図からさがし、アイヌ語で何と言うか口に出して言う。</p> <p>あるいは、進行役は地図上にはどんな動物がいるかを聞き、参加者は見つけた動物を言うていく。</p> <p>名前について気がついたことを交流する。</p> <p>※食料として利用頻度が非常に高いシカとサケは「カムイ (神)」ではない</p> <p>2. 狩猟用具あてゲーム</p> <p>参加者はどんな道具でどんな動物をとっていたかを考え、それぞれの動物のそばに、その動物をとっていた狩猟用具をおいてみる。</p> <p>3. 狩猟用具の紹介</p> <p>進行役は簡単に狩猟用具の説明をする。</p> <ul style="list-style-type: none">・ ウライは、川底の浅い上流にしかけ、上流の村や動物のために魚が通る隙をあけていた。・ 仕掛け弓はけもの道に糸をはり、小動物やシカをとった。・ 矢の先にはトリカブトで作った毒をぬり、矢には自分の家の家紋を彫って、誰の射た矢なのかわかるようになっていた。・ マレクは、サケが重く普通のヤスでは抜けてしまうため、あたると鉤部分が抜けてサケの体に食い込み抜けないような仕組みになっていた。・ 狩猟後は獲った相手の動物神に対し、祈りをささげ、解体し、動物神を神の国に送る。

C シコツの500年

概要	江戸時代シコツと呼ばれた現在の千歳市周辺のアイヌ民族と和人の歴史を、役割カードのセリフをよんだり、指示に従って物を動かすことで学んでいく。
ねらい	<ul style="list-style-type: none">・ 1人称の語りによって歴史を自分ごととしてとらえる。・ 物を動かすことで、できごとの影響を実感する。・ 北海道の玄関口千歳の実例を学ぶことで、よりリアルにアイヌ民族のおかれた立場を考える。・ 歴史を共有し、共によりよい未来を考える。
時間	40～50分
準備	<ul style="list-style-type: none">・ 4人一組になる。・ 机の上に教材の絵地図をおく。 (動物 11～22・松前 50 (シントコ 1・2)・サンタン [中国] 51 (山丹服 9・タマサイ 10)・伝統的な家チセ 48 (テンの皮 23・ニンカリ耳環 8・熊の皮 24・アイヌ語 31・イタオマチプ 7 が貼ってある。新しい家 49 は 48 の下に重ねておく)・原生林 40・41・ 和人グッズ それぞれ小さな封筒に①～④に分けて入れておく<ul style="list-style-type: none">① 130年前……シカ肉缶詰工場 25・インディアン水車 26② 100年前……千歳飛行場 47・製紙工場 29・恵庭の街 44・千歳の街 42・ダムと水力発電 27③ 60年前……直線化したイヨマイベツ 28・マオイトウの畑 43・オサツトゥ跡の畑 46④ 40年前……ゴルフ場 45・オサツの工場 30・ 狩猟用具 (ク・アイ 3・ウライ漁 4・マレク 5・アマッポ 6) を伝統的な家チセ 48 におく。・ 役割カード (和人カード 1～8・アイヌカード 1～9)・ 人形カード 役割人形 (役人 36・サムライ 37・商人 35・アイヌの男性 32・アイヌの女性 33、33-2・アイヌの子ども 34、34-2) アイヌの村長 35 を伝統的な家チセ 48 のそばにおく。開拓民 39 は役人がもつ。・ 「消した物コーナー」と「うばった物コーナー」・ ふりかえり用紙 1 グループに 4 枚とマジックなど

役割カード

コピー後、切り離してお使いください。

アイヌの大人の男性役……アイヌカード 1,4

アイヌの大人の女性役……アイヌカード 2,5,7

アイヌの子ども役……アイヌカード 3,6,8,9

和人のサムライ・商人の役……和人カード 1,2,3,4

和人の役人の役……和人カード 5,6,7,8

アイヌカード 1 大人の男性役
600 年前から 19 世紀までの話

サケを狙って、ワシやクマも集まり、わしらアイヌにとって、カムイ（神）からの恵みにあふれた場所だった。わしらは、神に感謝しながら、豊かに暮らしておった。

サケは、ウライでとったり、マレクでつき、ほして煙でいぶして干物をつくった。クマやシカは弓矢で、とった。

酒造りのための米・シントコ・ナイフなどを和人から手に入れるため、仕掛け弓などのワナでテンなどの毛皮のとれる動物をとって、交換したのじゃ。

指令●アイヌ（父）は、テンの毛皮をマツマエに持って行き、シントコ1つと交換し家に持ってこよう

アイヌカード 2（女性役）へ

最初の口上 進行役

昔、この土地は、シコツとよばれ、オサットウやマオイトウという大きな沼があったんだ。

オサットウには、シュクプバイベツや、シコツペツなどのたくさんの川が流れ込み、ツルみたいにとくさんの鳥が渡ってきて、にぎやかだった。秋になるとサケがたくさんのぼり、オサクマナイで産卵をしたんだ。

ランコウシには大きなコタン（村）があったんだ。ぼくらは先祖から伝わる言葉（アイヌ語）を話していた。

アイヌカード 1（男性役）へ

アイヌカード 1 大人の男性役

600 年前から 19 世紀までの話

サケを狙って、ワシやクマも集まり、わしらアイヌにとって、カムイ（神）からの恵みにあふれた場所だった。わしらは、神に感謝しながら、豊かに暮らしておった。

サケは、煙でいぶして干物をつくった。クマやシカからは肉や毛皮をいただいた。

酒造りのための米・シントコ・ナイフなどを和人から手に入れるため、仕掛け弓でテンをとって、交換したのじゃ。

指令●アイヌの男性役は、テンの毛皮をマツマエに持って行き、シントコ¹一つと交換し家に持ってこよう

アイヌカード 2（女性役）へ

アイヌカード4 大人の男性役 1669年(約340年前)

もうだまっておれん。わしらは戦った。東の村の長^{おさ}シャクシャインの呼びかけに応じて、このシッコにやってきた和人をおそい、^{まつまえ}松前に向かって攻めのぼった。しかし、和人の援軍がたくさん来て、鉄砲で大勢が殺され退却。シャクシャインも仲直りとみせかけて、だまし討ちにあつて、悲しい最期^{さいご}をとげた。わしらは、村長のイマシメをはじめ、^{ひとじち}人質をとられ、和人に乱暴しないことを約束させられた。だが、和人はアイヌを通さず、何かを直接とってはいけないことになったのだ。

指令1 ●アイヌはサムライ人形³⁷を松前へもどす
指令2 ●和人はアイヌの村長³⁵をマツマエに連れていく

和人カード3(商人役)へ

アイヌカード2 大人の女性役 1600年ごろ(400年前まで)

うちの人は、大きな船イタオマチブを持っているのよ。北の海をわたり、サンタンという国の役人からサンタンチミブという服をもらい、それを和人に売りつけ、たくさん宝物を持ってくるの。私もタマサイというネックレスをもらったわ。

指令●アイヌ(男)は熊の皮²⁴を、サンタンへ、イタオマチブ(船)⁷を使い持って行く。サンタンで、クマの皮とサンタンチミブ(服)⁹・タマサイ¹⁰と交換し、交換した物を松前に持って行く。松前では、服とシントコ²一つを交換する。イタオマチブ(船)⁹を使って家に、シントコ²とタマサイ¹⁰を持って帰る。

だけど、最近、^{まつまえ}松前にいる和人はだんだんいぼつてアイヌを馬鹿にするようになってきたんですつて。

クイズ●サンタンはどこだろう？

和人カード1(サムライ役)へ

クイズのヒント：サンタンチミブの真ん中の動物は？ ^{りゅう}龍
クイズの答え：中国

アイヌカード5 大人の女性役 1840年ごろ(約170年前)

私の大事な人は、オサツの^{てんまんや}天満屋という商人のところに働きに行ったきり、帰ってこない。私は子どもと二人で暮らしている。今日、短い刀を差した和人が、やってきた。このあたりの大だんなの^{あぶや}阿部屋さんの^{だいにん}代理人だという。そして私を妻に欲しいという。家族も養ってくれるというが、ほんとうだろうか。ああ、鳥になって飛んでゆき、あなたに^あ逢いたい。私たちは行き倒れた和人の子供も育てるのに、なぜ和人はうちの人を返してくれないのだろう？

和人カード4(サムライ役)へ

アイヌカード7 大人の女性役 1876年ごろ(約130年前)

明治政府の役人は山に仕掛け弓をしかけてはいけない、^{どくや}毒矢を使ってはいけない、シカはとってはいけない、ウライもしかけてはいけないと言うのよ。これでは生活がなりたないのよ、せめて仕掛け弓は毛皮を売ってかせぐために許してくれと、うちの人やみんなで札幌まで行って^{こうしょう}交渉したのだけど、追い返されたの。

アイヌであるうちの人を、木こりや^{やまあんないん}山案内人の仕事以外、^{やと}雇ってくれるところはないみたい。明日、うちの方は、家族を置いて、遠くの山に働きに行くことになったわ。私がしっかりしないと。いろいろな山菜をとって、子どもを養っていかねければ。

和人カード7(役人の役)へ

アイヌカード3 子ども役 1633年ごろ（約380年前）

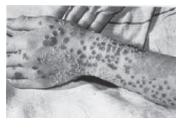
ピカピカ光る石が見つかって、たくさんの和人がシ
コツにやってきたよ。ワシやタカもとっていっちゃ
うから、見かけなくなってきた。和人は仲良しになっ
た、いい人もいるけど、川をあらしてしまふ悪い人
もいる。ぼくたちは、川に汚い水を捨てては絶対ダ
メって教わってるのに。水の神様ワッカウシカムイ
も怒ってるよ。サケと交換する米の量も減ったり、
こわ〜い病気ホウソウも来た。村中死んだところも
あったり、ひどいことばっかりなんだ。

指令1 ●和人はサムライ人形をルウサンへ

指令2 ●和人はカパッチリカムイ（ワシ¹⁵）1羽
を外し、うばった物コーナーへ持って行く

和人カード2（サムライ役）へ

和人がもってきたホウソウとは
現在の天然痘という伝染病のこ
とです。



アイヌカード6 子ども役 1870年ごろ（約140年前）

ぼくらの村の下流にたくさんの和人が入ってきた
よ。殿様も幕府もいなくなって、ミカドという人が、
北海道という名前になったこの島を、おさめるん
だって。僕たちは立派な日本人になるために学校に
通うんだ。立派な日本人になるには、アイヌ語を話
してはいけないうって言われたよ。名前もかえろって。
お父さんの名前はイタクトク（話の上手な人）とい
う名前だけど、ぼくは孝平^{こうへい}って名前をつけられたよ。
日本語は難しくていやだなあ。

指令1 ●アイヌはアイヌ語³¹を外し、「消した物
コーナー」へ置く

指令2 ●和人は開拓民^{かいたくみん}³⁹をルウサンへ

和人カード6（役人の役）へ

アイヌカード8 子ども役 1910年～1940年ごろ（70～100年前）

指令1 ●アイヌは伝統的な家⁴⁸を、新しい家⁴⁹に
かえる

ぼくのおばさんは、インディアン水車で働かせてく
れるというので、夏から秋まで働いた。だけど、も
らえたものは、サケのアラだけ。ぼくのおじさんは、
マレクでサケをつかまえようとするので、「密猟」と
言われ、警察に連れて行かれ、殴られたりけられた
りしたあげく、罰金を払わされた。貧乏のあまり病
気になり、毎月飢え死や病死のお葬式があった。お
母さんは、先祖から伝わる大事な着物・宝物を地面
にうめてかくしたよ。冬でも凍えながら池に生える
ヒシノミをとって、食べさせてくれるんだ。学校で
は、友だちや先生から悪口を言われ、いじめられる。
もう学校に行くのはいやだよ。

指令2 ●和人はアイヌの全ての宝（タマサイ¹⁰・
シントコ^{1・2}）を「うばった物コーナー」へ置く

指令3 ●アイヌの女性³³と子ども³⁴は和人と同じ服
になる（人形カードを裏かえす。33-2、34-2に）

和人カード8（役人の役）へ

アイヌカード9 子ども役 1970年ごろ（40年前）

川が直線になって、魚がいなくなったよ。前の川の
水は澄んでいたので、まるでドブみたいだ。マオイ
トウの水と、オサツトウの水は抜かれ、沼に流れ込
む水の流れがかえられ、畑になってしまったよ。網
があがらないほどいた魚たちは、どうなっちゃたん
だろう。ゴルフ場が次々につくられ、農薬も、川に
流れてきているんだって。高速道路も開通して工場
も次々と、たったよ。昔の川は地面の下にうめられ
ちゃったみたいだ。

おばあちゃんはアイヌらしいけど、ぼくの前ではア
イヌ語を話すのをわざとやめるよ。ぼくは日本人？
アイヌ？

指令1 ●和人は山にゴルフ場⁴⁵をはる

指令2 ●和人はオサツナイに工場³⁰をはる

おわり

今の思い・感想を話し合ひましょう。

それぞれの役柄について思ったことを話し合ひましょう。

リーダーはどんな意見がでてきたかまとめてください。

和人カード1 サムライ役
1593年(約420年前)

わしは、えぞ地の和人の殿様、蠣崎慶広である。
わしは、日本で一番えら〜い豊臣秀吉という方に、お前たちアイヌとの取引を全て任されたのじゃ。わしに刃向かうと、秀吉様が10万の軍勢でせめて来るぞ。
わざわざ色んな所に出かけなくとも、この松前の町に、江戸や大阪の商人が来るのだ。わしが、その取引のめんどろを見て、お前たちの損にはならぬようにするのだから、ありがた〜く思うのじゃ!

アイヌカード3(子ども役)へ

和人カード3 商人役
1786年(約220年前)

指令1 ●和人は和商人³⁸をルウサンへ

松前のサムライは、借金を返せなくなり、商売の権利を、わしに売ったのだ。貸した金を少しでも取りかえずぞ。規則が変わり、サケでもワシでも直接とっていいことになった。サカナをたくさんとるため、海に大網をしかけよう。アイヌを働き手にすると、給料をごまかせるから、安上がり。シャクシャインの時、刃向ってはいけないと約束したからな。米や酒がほしくて、遠くから働きに来るヤツはたくさんいる。いなければ無理やりつれてくるまでだ。こんないい商売はないぜ。ああ、あと、シコツつて縁起でもない地名だ。ここはツルが多いし、ツルは千年生きる「千歳」って名前にかえよう。

指令2 ●和人はサケ¹²一群とアイヌの男性³²をはがし、うばった物コーナーへ置く

アイヌカード5(女性役)へ

和人カード2 サムライ役
1668年(約340年前)

ここは、殿様から米の給料がわりに、アイヌと商売する権利を与えられた場所。ワシ・タカは、生かして本州に持っていくと、ペットとして高く売れるんじゃ。

指令1 ●和人は、残りのカパッチリカムイ(ワシ)¹⁶を地図からはずし、うばった物コーナーへ置く

本州の米の値があがったため、アイヌに今までどおりサケの代金を支払うと赤字になってしまう。だがな、アイヌは人がいいから、『40%に減らして!』と頼んだら、何とかなるんだな。あと、ほかの和人と取引されたら、わしらはこまる。アイヌはイタオマチブを作らないこと。

指令2 ●和人はイタオマチブ⁷も地図からはずし、消したもののコーナーへ置く

アイヌカード4(男性役)へ

和人カード4 サムライ役
1840年ごろ(約170年前)

私は、松浦武史郎。幕府の役人である。アイヌ語を学び、えぞ地をくまなく、旅した。和人たちは、言葉にできないほど、ひどいことをする者ばかりだ。私はその度に止めさせてきた。また、アイヌの中に困っている者がいれば、上司に手紙を送り、助けてもらえるようにした。しかし、年寄りしか残っていない村も多く、本当にあわれた。函館奉行に訴え、商人を商売禁止にしてみたが、失敗した。アイヌの人々は正直な者が多い。困っているだろうと、給料を多めに渡そうとすると、ちゃんとわかって「多すぎるので返します」というのだ。どうすれば彼らを幸せにできるだろう?

和人カード5(役人の役)へ

和人カード5 役人の役
1869年～1871年(約140年前)

わしは明治政府の開拓使長官の黒田である。
今日からここはえぞ地改め、北海道である。
野蛮なアイヌを立派な日本人にするために、まず日本語の読み書きをおしえることだ。それから、「男の耳環」とか、「死んだら家をやく」という、危険で野蛮な風習は捨てさせなければならん。アイヌがロシアと手を結んだら、北海道がロシアにのっとられる危険がある。「日本人」という意識を持たせなければ。

大名も、土地と人をミカドにお返ししたのに、商人がアイヌを使って漁場をもっているのはいかん。請負制は禁止する。

指令1 ●和人はニンカリ耳環⁸を外し、「消したもののコーナー」へ置く

指令2 ●商人³⁸を地図からとる

アイヌカード6(子ども役)へ

和人カード6 役人の役
1873年～1883年(約130年前)

シカもサケも外国に輸出できる大事な資源じゃ。アイヌにとらせていたら管理できない。よってアイヌのシカ猟・サケ漁を禁止。

指令1 ●和人はサケ漁の道具(ウライ漁⁴・マレク⁵)を「消した物コーナー」へ

また、開拓を進める上で仕掛け弓・毒矢(アマツポ・クアイ)は危険この上ない。これも禁止。

指令2 ●和人はアマツポ⁶とク・アイ³を「消した物コーナー」へ

そしてクマ・オオカミは危険な動物だ。見つけたら殺すこと。

指令3 ●和人はクマ¹⁷・オオカミ²¹を「消した物コーナー」へ

ヨーロッパにならって産業をおこすために、千歳には美々にシカ肉缶詰工場をたて、ネシコシにはインディアン水車というサケをとる装置をつけよう。アイヌが生活にこまるというのなら、そこで働かせてやればいい。

指令4 ●和人は美々にシカ肉缶詰工場²⁵をおく。ネシコウシにインディアン水車²⁶をおく

アイヌカード7(女性役)へ

和人カード7 役人の役
1911年～1926年(100～80年前)

指令1 ●和人はツル¹⁸・シカ¹⁹を「うばった物コーナー」へ

ツルもシカも、とっていたら、いなくなってしまうなあ。ところで、飛行場を作ったら、飛行機というものが来てくれるんだとさ。飛行機見たいから、みんなで飛行場をつくろう。

指令2 ●和人はシコツ超えの場所に千歳飛行場⁴⁷をはる

大きな木は農作業の邪魔。どんどん切って、炭にしたり、苦小牧の製紙工場に売ろう。

指令3 ●和人はユウフツに製紙工場²⁹をはる

指令4 ●和人は2つの原生森^{40・41}をとり「消した物コーナー」へ。そのあとにモイチャリに恵庭の街⁴⁴、ルウサンに千歳の街⁴²をはる

工場は電気が必要だからダムを作ろう。

指令5 ●和人はダムと水力発電²⁷をシコツトゥのそばにはる

アイヌカード8(子ども役)へ

和人カード8 役人の役
1951年(約60年前)

オサツ沼の近辺は、土がよく、農業に向いています。しかし洪水が多く、近くの人困っています。川が曲がりくねっているから、洪水がおきるのは。川を直線にし、排水路にしましょう。

またわが国の農業は、小規模で生産性が低いのが、弱点です。この大きな沼を干拓して農地にすれば、大規模農業をすることができ、わが国の農業を、前進させます。国家事業として、オサツ沼干拓に、取り組みます。

指令1 ●和人はイヨマイに直線化したイヨマイベツ²⁸をはる

指令2 ●和人はマオイトウ・オサツトゥに畑^{43・46}をはる

アイヌカード9(子ども役)へ

シコツの 500 年・カード解説

1. はじめに (カード全般について)

アイヌ語表記について

ここでは一般にわかりやすくするため、ローマ字表記でなく、カタカナ表記を採用した。ちなみにブクトの小さい字は、閉塞音といって、母音を発音しない子音であり、ヨーロッパ語の発音にはあっても日本語にはない発音である (例 マレク)。またラの小さい字はルとラの間のような音であり日本語としっかり区別する必要がある (例 ユカラ)。

ジェンダーについて

私が師事した中本ムツ子さんによれば、アイヌの考えでは、女性は「しゃべりすぎたり」「でしゃべりすぎてはいけない」ものであり、常にオリパク (遠慮) を忘れてはいけないのだ、とおっしゃっていた。実際にカンナカムイなどのカムイユカラでは、気の強い女性は悪者として扱われているようである。とはいえ、アペフチカムイ (火・おばあさん・神) はとても重い神であり、さまざまなカムイユカラやウエペケレ (昔話) で「姉」(サポ) がとても重要な役割をはたし、村の危機を救うのは「おばあさん」(フチ) であることを考えると、「常に受身」とは言えない存在であると私は思う。

一方で多くの民族がそうであるように、アイヌにおいても性的役割分業はたくさんあり、トゥレプタ (うばゆり堀) に代表される植物採集やトノト (お酒) 作りは女性の仕事、サケ漁やシカなどの獣の猟は男性の仕事だった。また、今では性別に関係なく謡うが、カムイユカラ (神謡) は女性が、ユカラ (英雄叙事詩) は男性が語り継ぐものだったようである。ムツ子さんによれば、挨拶の方法も違って、女性は人差し指で鼻の下を横にこするようなしぐさをし、男性は胸の前で手のひらを手前に上に立て上下するしぐさをとる。また、女性は未亡人にならないかぎり、カムイノミ (神への祈り) をしてはいけないものとされていたようである。

ここでは「歴史」カードなので、政治にはあまり口出ししない受身な存在とせざるをえなかった。しかし今後民族文化の研究が進めば、ここに女性カードが増

えればよいと思う。

2. それぞれのカードの出展や背景など

最初の口上 (進行役が読む)

松浦武史郎の日記によれば、渡り鳥、魚類の豊富な様子が詳細に記されている。鳥類ではガン・カモ類・ワシタカ類・ツル・白鳥が多い。魚類では、チョウザメ・カワガレイ・サケマスなどがとれ、「網をおろすと上がらぬ」と形容されるほど豊富だった様子が伝えられている。また、この地域のアイヌの多くがシカ皮の服を着ていたこと、多くの家でクマ・ワシを飼っていることから、クマ・シカ・ワシもまた豊富にいたことを示唆している。

また、長都沼は現在人工沼であるが、明治 24 年刊の国土地理院 50000 分の 1 地形図を見ると、湿地を含め 4km 四方の沼であり、マオイ沼は縦長の (長さ 5km 幅 1.5km) 沼でイカペツという川でつながっていたことがわかる。

アイヌ語地名は、「現地に行かなくても、地名を聞けば場所を想像できる」とよく言われる。有名な逸話で、八雲町町史によれば、青森連隊が八甲田山で遭難したときに、特別捜索に入った八雲アイヌ辨開^{べんかい}^{たこじろう} 次郎が、地元の漁師から地名を聞いただけで遭難場所を当てたとされている。近辺の他の地名では戸磯トイソ (トイ=土の、ソ=滝)、カリンパウシ (カリンパ=エゾ山桜、ウシ=たくさんある)、漁イチャリ (サケの産卵するところ) などがある。川の出会いは村同士の交易場所であり、夫婦である川が交わるところで大事な場所であったため、太プトという特別な名前がつく。ママチプト、イチャリプトなどたくさんあるプトが武史郎日記に登場し、コタンがあったことがわかる。

なお、教材における意味の解釈については、長見義三 (1976) や増補版千歳市史 (1983) によっている。

アイヌカード 1

瀬川 (2007) によれば、石狩川流域で擦文遺跡が集中する地域は、札幌市、千歳川上流、空知平野北端、上川盆地に限られている。これらの地域はいずれも湧水 (アイヌ語ではメムという) が出る地域である。サ

ケはこのような湧水のでる扇端地で産卵した。現在、石狩川水系で唯一鮭を捕獲採卵している千歳サケマス養殖場も良質の湧水がでることから選ばれている。擦文人が交易のためにサケ漁に特化して生業を営んでいたことをよく示している。

アイヌにとって、サケはシ・エ・ペ（本当の・食べる・物）とか、カムイ・チェブ（神の・魚）と呼ばれ重要な魚と考えられている。和人側の文献に登場する干鮭（カラサケ）は、江戸時代を通じて、蝦夷地の重要な特産品であった。

千歳には湧水を示す地名が大変多く、「めむし」（ムム・ウシ）、「ウルクメム」、「とめむ」（ト・メム）がある。ウライとは、川が浅い場所でのサケの仕掛け漁で、川幅いっぱいには柵をはり、中央にラウオマブという築（はり）を仕掛ける漁のことである。また、マレクは、サケ漁に使うアイヌ民族流のヤスである。先端部分を家で作り、柄の部分は現地調達したという。マレクには曲げた鉄の巨大な針が仕掛けてあり、鮭をつくると針の部分がはずれ、サケに食い込み逃げられない仕組みになっている。

ウライをしかけることは、江戸時代後期には「漁業権」のようなかたちで扱われていた。また、明治時代に入って、インディアン水車が導入されるまでは、サケ採卵の捕獲をする日本人もウサクマイ近辺でウライを用いていたことが市史に書かれている。

動物狩猟は、肉・交易用の毛皮を手に入れるためにおこなった。ちなみに、殺し皮をはぐ（道具であれば壊す）という行為はカムイメンチといい、カムイ（神）の魂をカムイの世界に戻すためにおこなわれる。それによってもたらされる富（肉・皮）はカムイからのお礼である。これはおそらくは縄文人時代から引き継がれている思想である。最も高価に取引されアイヌに恵みをもたらしたのは、カパッチリカムイ（ワシ）などの猛禽類である。猛禽類の尾羽は細かく品質分類され、矢羽として高値で取引された。次に重要な動物は、肉も毛皮も肝も高価に取引されるキムンカムイ〔キムン（山）〕（ヒグマ）である。春クマ猟では、冬眠明けのクマをオブ（槍）やクアイ（弓矢）で狙う。クマは冬眠中に出産し、1年目の冬も母熊とともに冬眠する。そのため、春熊猟では仔熊がとれることが多い。この

ような仔熊はコタンにつれて帰り、秋まで飼ってイオマンテというお祭りを近所を誘って盛大にやってカムイの世界に送った。シカはユク、タヌキはモ（小さい）・ユクと呼ばれることから、重要なタンパク源であったと考えられる。どちらもたいへんおいしい肉であるこれらの動物はカムイではない。かつて「アイヌはクマを殺して残酷」という生徒がいたが、縄文時代から続く習慣であることを伝えると納得していた。

また、テンやキツネなどの毛皮は交易を目的に狩猟され、多くの種類のワナが開発された。その中でも開拓記念館体験室にあるアマッポ（仕掛け弓）は重要な狩猟用具であった。千歳の小山田氏に師事してクマ猟を伝授された知床記念財団の山中正美によれば、山に入るときに持つキムン・クワ（山・杖）は、体の前に持つのが作法であり、その理由は仕掛け弓よけであるとのことであった。それだけ、獣道にはアマッポが仕掛けられていたと考えられる。矢の先にはスルク（トリカブトの毒）が塗ってあり、ワナのそばで取った動物を捕まえることができた。それでも、取った獣が誰のワナによるもの（矢によるもの）かはつきりさせるために、矢にはイトクパと呼ばれる先祖伝来伝わる印がつけられていた。

アイヌカード 2

イタオマチブは板綴船とよばれ、チブという桂の木をくり貫いた丸木舟に、板を上継ぎ足し、外洋航海用に耐波性を高めた船である。アイヌだけでなく、松前の藩主所有の船にも「縄とち手船八百石積み」大型のイタオマチブが、知られている（近藤家資料）。

このイタオマチブは交易に欠かせない道具であった。千歳の美々遺跡には、このイタオマチブの修理ドッグの跡と考えられる場所があり、板の部分を外し、さまざまなメンテナンスを行っていたと考えられる。ただし、帆に関しては、建て方は一様ではなく、絵図によっては帆柱がないものもある（例えば、函館図書館所蔵「蝦夷紀行」の中の「蝦夷船」）。

イタオマチブという交易船以外に、アイヌ民族にとって交易が重要であったことを示すことが4つある。まず、函館市志苔館発見の中国銭の量は、中世においては国内最大量であること。アイヌ文化の特徴の

ひとつが本州から輸入された「鉄鍋・刀」であること。中世の道南から道央のアイヌ墓から李朝青白磁が副葬されていること。そして、蝦夷錦（山丹服）である。1593年、松前慶広は、肥前名護屋城で豊臣秀吉に拝謁し、唐衣（サンタンチミブ）をほめられると、すぐさまぬいで献上した。この背景には、明がアムール川下流にヌルカン都司という役所を設置した13世紀以降、周辺の諸民族が朝貢貿易に対する見返りとして大量の絹織物を与えたという記録があり、それ以降、清朝へと周辺諸民族との朝貢貿易は引き継がれていった。ナーナイ・ニブフ・ウィルタ・サハリンアイヌの手によって朝貢貿易が行われ、北海道アイヌの手から松前に渡っていったと考えられる。

また、ルイス・フロイスの手記によれば「出羽の国の大なる町秋田と称する日本の地に来たり、交易をなす者多し」と書かれている。南部藩では寛永21年（1644年）五月内浦からエゾ船5艘が田名部（むつ）に来て、ニシン・干鮭をもたらしたこと、同年七月、メナシ（釧路地方）から田名部に4人のアイヌが来て活きツル一つ藩主に献上し交易を願い出していた。また石狩アイヌのハウカセは「高岡（現在の弘前）へ行き商いをしていた」と津軽一統志に書かれていて、寛永まで交易がおこなわれていたと推測されている（菊地1994）。

和人カード1

1593年、秀吉は慶広に朱印状をだした。秀吉は蝦夷地のワシタカに興味を持ち、蝦夷地から大阪まで、宿駅を配したタカ街道を作らせたといわれている。慶広はこの朱印状をアイヌ語に翻訳し、有力階層を集めてアイヌの人々に、「逆らうと背後には何十万と軍を動かせる秀吉がいる」という脅しをかけたといわれている。

また秀吉のあと家康は黒印状をだし、松前にアイヌとの交易独占許可を与えた。一方で「蝦夷は蝦夷の勝手次第」とされたため、少なくとも1640年代まで、南部藩に出かけ交易を願い出るアイヌがいた。しかし基本は松前の城下で交易が行われていた。

アイヌカード3・和人カード2

寛永期（1630年代）に鎖国体制が強化されたことにもない、和人地と蝦夷地が明確に定められ関所によって人の行き来が制限された。これにもない、アイヌ民族と交易する権利を商い場として家臣に分け与え、いわゆる商場知行制が成立した。千歳は重臣に与えられるシコツ鳥屋場（とやば）として扱われ、貴重なワシタカ類の産地として認識されていた。ちなみに元禄年間の記録によれば、現在の市街地に最も近い場所はロウサン（ルウサン）とよばれ、岡口彦兵衛が、大和から桂木のあたりはアツイシとよばれ、工藤茂兵衛が知行していた。

商場知行制の成立により、城下交易は否定されたため、地域にもよるが徐々にアイヌ側からの積極的な交易は減少しイタオマチブも作られなくなっていったと考えられる。ただし宗谷アイヌや千島アイヌは18～19世紀まで中継交易をおこなっていたため、地域によってアイヌ側の積極的な交易の有無は大きな差があると考えられる。

また、シャクシャインの蜂起まで和人の砂金堀はシコツからサルにかけて多くの地域に入り込んでいた。元和年間には、5～8万人の金堀が入り込んでいたことがアンジェリスによって報告されている。

津軽一統志によれば、蠣崎蔵人（かきざきくらんど）により干鮭五束（100本）＝米二斗だったのが、7～8升に引き下げられた。近年の研究では、当時東北地方で冷害がおきていて、米の相場自体が高沸していたと言われている。また疱瘡（天然痘）は世界各地で、先住民が絶滅においやられた伝染病であるが、和人が蝦夷地に持ちこみ、シャクシャインの敵であったオニビシの姉の夫であるウタフと云うアイヌが疱瘡で死んだという記述がでてくる。

また、長見義三の「千歳のウェペケレ」には、「ランコシの大鍋」という話が収録されている。その中で、少年が疱瘡の神に仰せつかってナベを洗わされるが、機転を利かした少年が、行者ニンニクの葉を鍋の底に敷いたころ、疱瘡の神がコタンを逃げ出し、難を逃れたという話がでてくる。千歳でも疱瘡は恐ろしい病気と認識されていた証拠だと考える。

アイヌカード 4

歴史家の中では「寛文9年の蜂起」、一般には「シャクシャインの戦い」と言われる。津軽一統志では、和人殺害の最初の記事で以下のように記載されている。「当夏、松前より下の口え参候舟の内、松前の鷹船一艘しこつと申所にて打殺申候由、当六月廿二日、松前え申候。」「松前殿鷹師船十三人乗、当夏、しこつえ参候を、毎年のごとく陸へ上げ置き、小屋を懸けさせ、くつろき候時分、狄共夜に入りよせ、皆皆殺し申由に付……」すなわち寛文9年の蜂起の和人殺害は、シコツではじまった。

蜂起のきっかけは、ウタフが疱瘡で死んだことをシャクシャインが、「シャクシャイン申成候は、ウトフ義松前にて毒飼せられ相果候。此の後も狄地へ参候食物に毒を入、狄とも殺可申候、松前よりのたくみにて候」と松前の和人に毒殺されたと考えたことがきっかけである。

また、この蜂起に際してシコツ周辺の松前に味方したアイヌ、シコツの「イマシメ・カルペ・ヤヨリパ」、アチウシのニニテマリ、オサツのシモサなどが、反逆しないように人質にとられた。

鉄砲なども装備し、国縫まで攻めのぼって善戦したシャクシャインであったが、アイヌ側が一枚岩でなかったこと、津軽藩や幕府の援助を得て、和人地に住む一般人を臨時徴収し兵力を得た松前藩に最終的には押し込まれる結果となる。最終的には、和睦と称し酒宴に呼び出されたシャクシャイン一党は、夜中に小屋に火をつけられ、出てきたところをなで切りにされたとされている。戦後、各地のアイヌの有力者たちは「和人に乱暴しないこと、丁寧にもてなすこと」などが記された起請文を誓わされ「ツグナイ」の品物を出させられた。

これまでの研究では、この寛文9年の蜂起以降、松前の支配が強まったという記述が多かった(例えば「アイヌ民族に関する指導資料」)。しかし、近年の研究では、シャクシャインの蜂起をきっかけに幕府側からより一層の「鎖国体制」の貫徹を求められ、「一商場に夏舟一艘」の原則が確立され、鯉船、鱒船、鷹待ち、砂金堀の派遣が禁止されたこと、和人の婦女子の蝦夷地への立ち入り禁止、陸路通行制限の徹底、などがお

こなわれ蜂起の影響は十分にあったという考えが一般的になっている(例えば「場所請負制とアイヌ」)。また、元禄元(1687)年の水戸藩の記録で、交換比率も1斗2升になっていることから、蜂起は一定の成果を得たと考えられている(榎本1981)。

和人カード 3

元禄16年(1703年)大風により藩主手船が大量に喪失したこと、宝暦年間(1750年代)に藩の財政を支えていた鳥屋場の鷹の産出量が激減したこと、明和年間(1760年代)の藩主道広がたいへんな浪費家であったことなどから、ナマコ、秋味、ます、ニシンなどの権利が、運上金の徴収と引き換えに商人に乱発的に与えられるようになる。ルーズな藩政をうけて、明和6年には陸路通行が規制緩和され、天明6(1786)年には、旅人稼方勝手次第となり、これまでのルールがなし崩しになり、諸国商人が直接蝦夷地に入り込むようになる。ただし、アイヌ側が最初から商人に使役され、全てが松浦武史郎が指摘するような奴隷状態であったかという点、そうではなく、近年の研究では、文化年間(1810年代)に疱瘡の流行で石狩アイヌが多数死亡するまでは、小型の地引網などを使ったアイヌ自身による漁(自分稼ぎ)以外に、和人が直接石狩場所で操業することはなかったと言われている(小林1998)。しかしながら、19世紀に入ると多くの地域で、萱野(1990)が伝えるような奴隷的使役や強制徴用が行われるようになった。

アイヌカード 5

松浦武史郎の夕張日誌(安政5(1858)年)に登場する武史郎の案内人であるイタクレイはユウフツからオサツに出稼ぎをしているが、妻がユウフツの番人の妾にされているため、家に帰ることができないという記述がある。このカードはこの部分をもととしている。ユウフツからサルにかけて、強制徴用や出稼ぎが盛んに行われていたことを示す証拠として、アイヌの女性が歌う即興歌である「ヤイサマ」がある。カードのセリフは、ヤイサマの歌詞からとっている。

萱野(前掲)によれば、松浦武史郎の左留日誌で二風谷の個所を見ると「倅雇いにとられたり」あるいは

「家主と倅、雇いにとられたり」という記述がたいへん多く、ほとんどの家に働き盛りの男はいないことになる。

和人カード 5・アイヌカード 6

明治2(1869)年 開拓使が設置され、蝦夷地が松浦武史郎の建議により北海道となる。

同4年、家焼き・入れ墨・耳環の禁止・日本語を学ぶ通達がだされる。明治政府によるアイヌ民族の和人への同化政策が本格化する。この当時の蘭越の記録を見ると、アイヌ名と日本名が入り混じっていて、カードのような事態がおきていたと考える。

明治3年(1870年) 戊辰戦争の功績により高知藩が千歳に入植する。これが和人の千歳への入植のはじめである。

武士でさえ、版籍奉還をしているのに、北海道の場所請負制度は商人が場所の人民を支配しておかしいということで、明治9年までに全面廃止になった。

和人カード 6・アイヌカード 7・8

明治6(1873)年頃から次々と、資源の保護管理に乗り出した明治政府は、ウライ漁とテス漁を禁止する。同時に殖産興業の一環としてヨーロッパの技術を導入し、サケの魚苗化として根志越に採卵養殖場の建設、美々にシカ肉の缶詰工場の建設をおこなう。

1878年に東京書記官から本庁書記官に「ウライやテスを禁止すると関係者やアイヌの仕事がなくなり生活に困るだろうが、将来の産業育成のためには、きっぱり全体の利益のために禁止するべきである」と云う趣旨の手紙が送られている。この政策によって、日高地方を中心に多くのアイヌ民族が飢餓で苦しんでいたことが知られている(山田2011)。

同時に、明治10年代、オオカミは牧場経営の障害になる動物としてエドウィン・ダンの指導のもと、硝酸ストリキニーネという毒薬を入れた馬肉をまかれ、殺されていった。捕獲された地域は、御料牧場などがつくられた苫小牧からえりも道東にかけての場所になっている。

明治29年、千歳には現在のサケ捕獲器であるインディアン水車が設けられる。中本俊二さんによれば、

11歳のときに親と共にインディアン水車で働いた彼の母親はサケのあらしかもらえなかったそうである。このカードの逸話のほとんどは「アイヌの生涯」という本から取っている。

また、アイヌ民族指導資料によれば、「明治9年開拓使札幌本庁、毒矢猟の禁止を布達。各地のアイヌ民族が延期を求める嘆願を出す、禁止を強行」とある。千歳については千歳郡蘭越村のカバリヒヤ他4名の禁止延期の嘆願書が残っている。毒矢猟禁止は、アイヌ民族にとって唯一の現金収入元が断たれたことを意味したと考える。富裕層や字の読み書きができるアイヌは鑑札を入手し、鉄砲や認められた罟猟による狩猟を続けることができただろうが、多くのアイヌにとってそれは険しい道だったに違いない。また、中本俊二さんや萱野茂によれば、多くのアイヌの男性が「山仕事」をしていた。山仕事とは、測量案内人、造材人夫、木材搬出の道付け人夫、樵などである。千歳でも、蘭越とウサクマイの職業記録を見ると、全てに「日雇渡世」とあることから、カードに記載したような厳しい生活を強いられたと考える。

和人カード 7

シカは明治20年代には数が激減し、22年には全面狩猟禁止になる。また明治30年代には、千歳からその地名の語源であるツルが姿を消した。

千歳市史によれば、木炭は明治時代の千歳の主要産品である。今や炭焼きは市内で1軒だけになったが、かつては、石狩川との出会である江別太から千歳橋まで登ってくる舟を利用して盛んに炭が輸送され売られていた。また、明治44年には千歳川に王子製紙によるダムがつくられ、苫小牧の製紙工場への送電を開始した。

また、飛行場は以下のようなきっかけでできた。大正15年私鉄北海道鉄道が開通し、千歳駅・美々駅ができると、鮭ます孵化場見学会と観楓会が小樽新聞社によって企画された。小樽新聞社は、それらの観光客をもてなすために、空から飛行機でピラをまくという企画を考えた。それを聞いて飛行機を真近で見たいと考えた千歳村の村民総出で2日間で作くりあげた。大正14年10月21日小樽新聞社の北海号が無事、村

民の見守る中着陸した。この場所が現在の千歳空港のある場所であり、江戸時代はシコツ越えとよばれた所で、今も昔も交通の要所なのだ。

和人カード 8

昭和7年～昭和38年にかけて、河川の切り替え工事がおこなわれ、水害対策のための河川の直線化がおこなわれてきた。一方で、生態学的に見れば、生物の多様性は失われ続け、魚類を中心に水鳥の生態系が徹底的に破壊されたと考えられる。また食糧難の昭和22年にはマオイ沼が干拓され、昭和26年からは、土地改良法をうけた、八郎潟干拓に続く国営パイロット事業として長都沼干拓がおこなわれ、昭和33年には排水工事により長都沼の水位が低下。現在の広大な農地が出現した。

アイヌカード 9

老人たちが、子どもの前でわざとアイヌ語で話すことをやめる話は、千歳のアイヌ民族の方達から直接聞き取った話に基づいている。ムツ子さんが伝承活動を始めた時も、多くの人がすぐには賛同しなかったそうである。それほどひどい差別の中で、文化を伝承しないという選択をせざるをえなかった人達の悲しみを想像するにあまりある。

また、魚がいなくなった逸話は、「川と湖の物語」（田中1982）第16話「最後に消えゆく小沼」からとっている。この授業をくみだてるにあたって、長都沼の昔の写真を探した。右に掲載するものは、千歳市埋蔵文化センターの高橋さんから提供していただいたものである。大正時代にはフナ・ワカサギの缶詰をつくり札幌で売っていたという記録があるが、図書館ではマオイ沼の写真はあっても、長都沼の写真はなかった。人々の記憶から消え去った幻の沼。しかし、もし、それがあつたら、と仮定せずにはいられない。おそらく日本最大の野鳥サンクチャリ、自然公園になったであろう。



参考文献

- ①『千歳市史』千歳市 1969年
- ②『増補版千歳市史』千歳市 1983年
- ③『郷土史ケヌフチ物語』泉郷集落連合会 1992年
- ④『千歳地名散歩』長見義三 1976年 北海道新聞社刊
- ⑤『ちとせ歴史ものがたり』長見義三 2009年
- ⑥『ちとせのウェベケレ』長見義三 1994年 響文社
- ⑦『アイヌの歴史～海と宝のノマド～』瀬川拓郎 2007年 講談社選書メチエ
- ⑧『場所請負制とアイヌ』北海道・東北史研究会編 1998年 北海道出版企画センター
- ⑨『川と湖の物語 札幌郡広島周辺アイヌ語地名考』田中吉人 1982年 広島町郷土史研究会
- ⑩『アイヌの碑』萱野茂 1990年 朝日文庫
- ⑪『北海道の歴史』榎本守恵 1981年 北海道新聞社
- ⑫『アイヌ民族と日本人～東アジアの中の蝦夷地～』菊地勇夫 1994年 朝日選書
- ⑬『オオカミはなぜ消えたか』千葉徳爾 1995年 新人物往来社
- ⑭『蝦夷錦と北方交易』総合博物館青森県郷土館 開館30周年記念特別展図録 2003年
- ⑮『蝦夷地のころ』北海道開拓記念館 常設展示解説3 2000年
- ⑯『千歳川』千歳市自然保護協会
- ⑰『大学排水とオサツ沼』北海道開発局ほか
- ⑱『アイヌ民族に関する指導資料』財団法人 アイヌ文化振興推進機構 2000年
- ⑲『あるアイヌの生涯』中本俊二 1994年 民族歴史研

本教材の生みの親は先に出版されている、「ティフ星人はパセリを食べる」である。この教材の「史実のカード」作りに関わっているときに、多くの参加者の感想や、教材を紹介した時の研究会の反応は、①難解なこと、②記述が客観的すぎて実感できない、ということだった。

この点を改善し、さらなる教材をつくるべく、北海道開発教育ネットワーク(D-net)では、2009年の合宿セミナーで、アイヌ民族の方をお呼びし、聞き取りをおこない教材づくりをスタートした。その合宿セミナーの中で、どうにかして「歴史」をより身近に、実感をとまなう形で、しかも参加者が主体となつてできる活動はできないだろうか、と議論になった。悩んだ末にこの教材の基のアイデア、つまり、絵の上で、歴史によるアイヌ民族にとっての環境の変化を表現する、という大元の発想が生まれた。

当初この教材は、北海道、ないし石狩地方というあいまいな地域を想定して作っていた。しかし、歴史教育者協議会という研究会でいくつか意見をいただく中で、私が勤務して、資料が豊富にそろえられる千歳に限定した方がより現実味があるということになった。実際、千歳の過去の地名であるシコツという名称は江戸時代の文献である「シャクシャインの蜂起」についての記述で有名な津軽一統志、場所請負制の非道さを告発したことで有名な松浦武史郎の日記にも登場する。またたくさんの遺跡が発掘されていて、特に丸木舟の修理工場跡が見つかるなど、交通の要所であったことが裏付けられている。また、アイヌ民族による口承伝承的な歴史も豊富にあり、このカード教材を作る上での具体的なエピソードや登場人物には事欠かない場所である。一見普遍性がなさそうであるが、この北海道の玄関口千歳が抱えている歴史は、他の多くの土地でもアイヌ民族が味わった歴史であり、千歳における開発は、他の多くのアイヌモシリ(アイヌの土地)でもおきた開発である。

千歳空港に降りる前に、飛行機の上からどこまでも広がる美しい畑を見たときに、ぜひ、その背景にある開発の歴史も思い出していただければと思う。教材を作るにあたって、千歳の今は故人となられた中本ムツ子さんをはじめ、千歳アイヌ文化伝承保存会の皆さん、

アイヌペンクラブ会長の野本久栄さんに監修していただいた。江別市立野幌中学校滝川裕二先生には近世史に関して助言をいただいた。また、DEAR(開発教育協会)の主催で、砂澤嘉代さんとタンジョハンさんが札幌でおこなったワークショップも大きな動機づけになった。D-netと歴史教育者協議会札幌支部のみなさんの協力によって、細かい点の改善をおこなうことができた。アイヌも和人も歴史を乗り越え、自然と共に生きることのできる、よりよい明日の地域をつくる動機づけになることを願っている。

みんなが描く未来

砂澤嘉代 アイヌ民族文化伝承「らぶらん」

「シコツの500年」について、アイヌ出身で現在マレーシアに在住し、人権問題などに関わっている砂澤嘉代さんからコメントをいただきました。

反差別運動や開発抗議活動が続く中、北海道に住む親友から嬉しいニュースが届いた。お忙しい中、時間を費やし製作されていた教材が出版される。目を細めて嬉しそうな渡邊圭さんの顔が浮かび、私もつられて笑顔になる。

この教材を圭さんが私に紹介してくれたのは、今年の秋。待ち合わせのレストランに行く途中、どのようなものなのか興味津々で、ワクワクしていたのを今でも覚えている。

まるで昔話を聞いているかのようにスタートするこの教材。一見、ゲーム感覚で、次の展開が待ち遠しくなる。話に沿って自分の手を動かし、少しずつ変わっていく町の風景が現れていく。開発が進むにつれて、ゲーム感覚で始めたことを後悔する。鳥を山から自分の手を使って取り除いていく。いろいろなものがコンクリートに変わっていく。机上ながら「鳥を山に戻したいんですけど、いいかな？」と言いたくなる。まるでその中に私が住んでいるかのような感覚にとらわれてしまった。奥の深い教材の威力にまんまとはまってしまっていた。圭さんが子どもたちに伝えたいことがじんわりと見えてきた。

年齢的には大人の私なので、時折、悲しくなったり、悔しく思ったりする感情の起伏を必死に抑えようと努めたが、ショックを隠しきれないほどのとどめを刺されてしまった。そこには気分が悪くなるほどの、定規で測ったような“きれい”な格子状の道路がどこまでも繋がり、灰色の町ができていた。それが目の前に現れた時、気分も、機嫌も悪くなった。

マレーシアではコミュニティー・ワークショップの中で、ロールプレイやドラマを用いて違う立場の役を演じ、それぞれの立場や役割を理解し、最終的にどこに問題があるのか、何を改善すればいいのかなどを人々が直接感じ、理解し、解決法をみんなで見つけ出していく。いろいろなワークショップに参加してきたが、机上でこんなにも自分の感情が動かされた教材は初めてではないだろうか。アイヌの先祖が暮らしていた大自然を感じ、心が安らいだ。そして町が灰色になっていく経過を自分が手がけ、変わり果てていく風景を見て、心が落ち込んだ。

この1年後、偶然にもアイヌの先祖が受けた悔しさを私自身が体験することになる。今思えば、あのレストランでこれから私に起こる出来事をシミュレーションしていたかのようだ。あのときの灰色の町を見た時のショックが、現実になったのだ。

私の住むマレーシアでも各地で盛んに開発が進められている。家のすぐ前にあった小さな森が崩された。何度も市や企業との会議に参加し抗議する毎日が続く。政府が許可した以上、住民には建設を止める権利はないのだが、この怒りをぶつけずにはいられない。

私の生活も一変した。朝起こしてくれていたおしゃべりな鳥たちの代わりに、山を削るドリルの音で目がさめる。月影にかわいらしい姿を見せてくれていた梟たちは、異国に住む私に故郷北海道を思い出させ、幸せな時間をくれていた。そんな時間ももう二度と味わうことはできなくなった。それどころか、月さえも探さなければ見えないくらい、煌々とライトを照らし、夜中までトラックが行き交う。埃で咳と頭痛が続き、体感温度が上昇するのを実感する。むごい光景を毎日目にし、顔の縦しわが増えたようだ。これもむごいことである。

木々たちが倒される音を聞くと、はっとする。言葉では言い表すことのできない不快感に襲われる。木が泣いているようで、たまらない。その回りを小鳥たちが飛び交う。きつ

と小鳥たちの巣があったのだろう。心の中で「小鳥たち！攻撃せよ！」と叫んでいる。その労働者には何の罪もないのだが、そんな間違っただけの衝動に駆られてしまう。

マレーシア先住民族オラン・アスリの仲間たちは何度こんな目にあっただか。そのたびにショベルトラクターの前に立ち上がる。赤ん坊を抱えたお母さんも杖を突いたおじいさんもみんな手を広げる。その光景は私の胸をかきむしり、涙が止まらなくなる。えぐられた山の一部を見て嘆き、申し訳ないと先祖に頭を下げる。そしてこれ以上の破壊は許さないと誓う。

アイヌの先祖たちにとって、山を崩されるということは現在のマレーシア先住民族オラン・アスリと同様、生活の全てを奪われてしまうということだったはずだ。言い換えれば、生きることを諦めろと言われたようなものだと思う。先祖たちの気持ちを考えるとやりきれない。小さな森を崩されただけで、自分の体の一部が削られているような感覚になり、家から逃げ出すこともしばしばある私には到底耐えることはできないだろう。心の中で小鳥たちに「攻撃せよ！」と出動命令を出すくらい、許していただきたい。でなければ埃と一緒に増え続ける体にできた湿疹が治らないだろう。

この教材は忘れかけている大切なことを思い出させ、そしてみんなでこれからの未来を考えていくきっかけを与えてくれる。小学生だけでなく、大人の方々にも是非使ってもらいたいと思う。開発しきってしまった町しか知らない世代と、昔の光景を忘れてしまった大人たちが、共に原点に戻り、祖先の偉大さを心で感じてもらいたい。そしてその後に襲ってくる悔しい気持ちは、これからのみなさんの活動に力を与えてくれるはずである。

小学生のみんなからは「かわいそう」という声が出るかもしれない。でも現実を知ることから始めよう。そしてみんなの描く未来がどんなものなのかをきちんと大人たちに伝えてもらいたい。そして今の大人たちは子どもたちの望みがかなえられるように、準備をしておかないといけない。そのための努力を惜しむ大人は一人としていないだろう。

めまぐるしく過ぎていく日々の中、未来について考える機会に恵まれたことは、幸運であった。この教材を育ててくれた生みの親、渡邊圭さんに心から感謝している。今、私は神さまにしっかりしろと背中を押されている気分に酔いしれながら、できることを一つずつ確実に進めていきたいと改めて誓う。

先住民族と ESD 2011 年 3 月 10 日発行

はじめに 田中治彦 上條直美

解説

- 1 先住民族をめぐる課題と教材作成 小泉雅弘
- 2 先住民族に関する国際的動向 上村英明
- 3 アイヌ民族と土地—旭川のアイヌから
川村シンリツ・エオリバック・アイヌ

教材「ティフ星人はパセリを食べる」

- 1 ティフ星人がやってきた！
- 2 史実カード
 - I 北海道（アイヌ民族）
 - II マレーシア・サラワク州（イバンなどの先住民族）
- 3 私の願い
- 4 アイス・ブレイキング
 - ①こんな人を探してみよう
 - ②進化ジャンケン
 - ③映画トーク

資料

- 1 北海道旧土人保護法
 - 2 アイヌ民族に関する法律(案) (社)北海道ウタリ協会
 - 3 アイヌ文化振興法
 - 4 先住民族の権利に関する国際連合宣言
 - 5 参考文献
-

続・先住民族と ESD

発行日—2012 年 1 月 25 日

発行——立教大学 ESD 研究センター (ESDRC)
〒171-8501 東京都豊島区西池袋 3-34-1
TEL&FAX : 03-3985-2686
URL: <http://www.rikkyo.ac.jp/research/laboratory/ESD/>

編集——「続・先住民族と ESD」編集委員会

編集委員—上條直美 田中治彦 チャリダー・ピヤタムロンチャイ
樋口 歩 渡邊 圭 小泉雅弘

編集協力—北海道開発教育ネットワーク (特活) さっぽろ自由学校「遊」
(特活) 開発教育協会

表紙版画—結城幸司
デザイン—designFF + 高田真貴
印刷——株式会社マルス

表紙版画タイトル：冬を知る生きもの達の凧